

施設実習の代替学習に関する実践例

一社)全国保健師教育機関協議会 教育課程委員会

I 情報の収集方法

1. 収集方法

- ①全国保健師教育機関協議会 MLにより会員に実習代替実践の緊急募集を告知
- ②全国保健師教育機関協議会のホームページの新型コロナウイルス感染症に関する情報交換掲示板(会員専用)への実習に関する投稿データを収集した。

2. 期間と収集学校数

2020年4月30日～5月22日 10校

II 実習施設での実習ができない場合に到達度の達成が難しいと思われる到達目標

看護実践教育において、実習施設での実践活動の経験がなく、シミュレーション等では、卒業時の到達度の習得が難しいと考えられる。卒業時の到達目標の到達度は、I「少しの助言で自立してできる」、II「指導のもとで実施できる」、III「学内演習で実施できる」、IV「知識としてわかる」の4段階で示されているが、実習での習得が期待されるのは、I、IIの到達度とされている目標項目である。そこで、到達度をIあるいはIIとされている到達目標のうち、特に実習体験がない中では習得が難しい項目としては、以下の表1の項目が考えられた。

表1 実習施設での実習がない場合に獲得が難しいと思われる項目

卒業時の到達目標				到達度	
大項目	中項目	小項目		個人/ 家族	集団/ 地域
1. 地域の健康課題の明らかにし、解決・改善策を計画・立案する	A. 地域の人々の生活と健康を多角的・継続的にアセスメントする	5	健康問題を持つ当事者の視点を踏まえてアセスメントする	I	I
		9	健康課題を持ちながらそれを認識していない・表出しない・表出できない人々を見出す	I	II
	B. 地域の顕在的、潜在的な健康課題を見出す	10	潜在化している健康課題を見出し、今後起こり得る健康課題を予測する	I	II
		11	地域の人々の持つ力（健康課題に気づき、解決・改善、健康増進する能力）を見出す	I	I
2. 地域の人々と協働して、健康課題を解決・改善し、健康増進能力を高める	D. 活動を展開する	17	地域の人々の生命・健康、人間としての尊厳と権利を守る	I	I
		18	地域の人々の生活と文化に配慮した活動を行う	I	I
		19	プライバシーに配慮し、個人情報の収集・管理を適切に行う	I	I
		20	地域の人々の持つ力を引き出すよう支援する	I	II
		21	地域の人々が意思決定できるよう支援する	II	II
		22	訪問・相談による支援を行う	I	II
		23	健康教育による支援を行う	I	II
		24	地域組織・当事者グループ等を育成する支援を行う		III

卒業時の到達目標				到達度	
大項目	中項目	小項目		個人/ 家族	集団/ 地域
		25	活用できる社会資源、協働できる機関・人材について、情報提供をする	I	I
		26	支援目的に応じて社会資源を活用する	II	II
		27	当事者と関係職種・機関でチームを組織する	II	II
		28	個人/家族支援、組織的アプローチ等を組み合わせて活用する	II	II
		29	法律や条例等を踏まえて活動する	I	I
		30	目的に基づいて活動を記録する	I	I
	E. 地域の人々・関係者・機関と協働する	31	協働するためのコミュニケーションをとりながら信頼関係を築く	I	II
		32	必要な情報と活動目的を共有する	I	II
		33	互いの役割を認め合い、ともに活動する	II	II
	F. 活動を評価・フォローアップする	34	活動の評価を行う	I	I
		35	評価結果を活動にフィードバックする	I	I
		36	継続した活動が必要な対象を判断する	I	I
		37	必要な対象に継続した活動を行う	II	II
	3.地域の健康危機管理を行う	G. 健康危機管理の体制を整え予防策を講じる	38	健康危機（感染症・虐待・DV・自殺・災害等）への予防策を講じる	II
41			健康危機についての予防教育活動を行う	II	II
4. 地域の人々の健康を保障するために、生活と健康に関する社会資源の公平な利用と分配を促進する	J. 社会資源を開発する	50	活用できる社会資源と利用上の問題を見出す	I	
	K. システム化する	54	健康課題の解決のためにシステム化の必要性をアセスメントする	I	
		59	施策化に必要な情報を収集する	I	
		60	施策化が必要である根拠について資料化する	I	

Ⅲ 実践例の概要

上記Ⅱで示した項目を中心に、保健活動のアプローチ方法別に代替実践例の概要と工夫点を整理する。

1. 家庭訪問

実践例	工夫点	工夫点で到達度の達成への補完が期待される到達目標
複数事例を提供し支援計画の立案をし、そのうち1事例は計画支援計画を立案する	・既存のテキストの事例の活用	A、B、C
教員が事例を作成し支援計画を立案する	・教員の作成事例への実習施設の保健師やOBによる確認	A、B、C、そのうちB(9、10、11)は事例内容の工夫により補完
家庭訪問のデモンストレーション動画をみてディスカッションを行う。	・家庭訪問の教員によるデモンストレーション動画の作成	A、B、C
実習施設からの事例提供を受け、初回訪問計画の立案 実習指導者から初回訪問後の事例の展開についてコメントをもらう	・実習施設の実例の提供 ・初回訪問後の経過を指導者からフィードバックいただく	A、B、C とりわけB(9、10、11)は事例選定と実習指導者によるフィードバックのよって補完
事前学習に既存動画(アタッチメント、児童虐待)を用いる 事例を提供し、訪問計画の立案に基づき、ロールプレイを行う	・既存オンライン動画・学習課題による保健活動の理解 ・事例内容の工夫 ・ロールプレイの実施	A、B、C、D、G 児童虐待の事前学習・母子事例の提供から個人の健康危機への対応の学習を補完

2. 健康相談

実践例	工夫点	工夫点で到達度の達成への補完が期待される到達目標
健康相談事例の記録(情報、アセスメント、計画)の作成	・事例を用いた情報収集・アセスメント・計画の記述による健康相談の理解促進	A、B、C
健康相談の手順書の作成後、オンライン健康相談のロールプレイの実施	・手順書の作成による相談過程の理解の促進。オンラインによる健康相談の実施	A、B、C、D Dは、ロールプレイの実施により補完
既存のテキスト動画を視聴し、提示した事例に対する健康相談支援計画の立案・ロールプレイの実施	・既存オンライン動画・学習課題による理解促進 ・ロールプレイの実施	A、B、C、D Dは、ロールプレイの実施により補完
実習予定であった事業所社員、老人会、公民館に協力いただきオンライン健康相談の実施と協力者からのフィードバック	・実習予定であった事業所の社員、老人会、公民館の協力を得る ・オンラインによる健康相談の実施	A、B、C、D D(17、18、19、20、21、22、26)は、実習先の従業員、住民さんのオンライン協力参加によって補完

3. 健康診査

実践例	工夫点	工夫点で到達度の達成への補完が期待される到達目標
健康診査の手順書の作成	・手順書の作成による相談過程の理解促進	A、B、C
健康診査の計画作成・ロールプレイ	・健康診査の計画作成 ・ロールプレイの実施	A、B、C、D

4. 健康教育

実践例	工夫点	工夫点で到達度の達成への補完が期待される到達目標
実習市町の地域診断に基づいた健康課題に対する健康教育計画・シナリオの作成・オンライン実施	・地域診断から健康教育計画までの連続した課題 ・オンラインによるグループメンバーでの媒体の検討 ・オンライン用健康教育媒体の作成と実施	A、B、C
・健康教育動画の作成あるいはオンラインでの実施(録画) ・実習施設指導者に視聴いただき評価をもらう	・オンラインでの健康教育の実施 ・実習指導者からのフィードバックによる実践的指導	A、B、C、D とりわけD(17、18、20、21、23)をオンラインでの実施と指導者のフィードバックで補完
COVID-19 終息後の高齢者向け健康教育動画を作成し実習予定であった地域組織に視聴いただき携帯電話によるフィードバックを得て組織活動に触れる	・COVID-19 を取り入れた健康教育の作成による学習の動機づけ ・リアルな健康課題への取り組み ・オンライン用健康教育媒体の作成 ・地域組織メンバーの視聴とオンラインによるフィードバック	A、B、C、D とりわけD(17、18、20、21、23、24)をオンライン媒体の作成と地域組織のフィードバックで補完

5. 地域診断

実践例	工夫点	工夫点で到達度の達成への補完が期待される到達目標
学生による実習指導者や関係者のインタビューを質的データとして行い、実習地の地域診断を実施	・学生による実習指導者や関係者へのインタビューの実施により地域の質的データ収集	A、B、C とりわけ、A(5)、B(8、9)、C(12から16)は、学生における関係者へのインタビューを組み込んだことで補完
学生の自宅周辺地域を地域診断の対象地域としてデータ収集、身近な住民・教	・学生の自宅周辺を対象にして、インタビューによ	A、B、C とりわけ、B(1、5、8、9)、

員の地縁のある住民へのインタビュー、学生自身の生活・健康調査によって地域の健康課題の把握・支援計画を立案する。インタビューは電話・メール、オンラインを活用して実施	る質的情報を収集	C (12 から 16) は、学生の生活拠点である地区を対象とすることと、インタビューを組み込んだことで補完
地域診断・健康課題の抽出・事業計画(案)の作成	・地域診断から事業計画までの連続した展開	A、B、C、L とりわけ L (59,60)

6. 地区組織活動

実践例	工夫点	工夫点で到達度の達成への補完が期待される到達目標
健康教育動画を作成し実習予定であった地域組織に視聴いただき携帯電話によるフィードバックを得て組織活動に触れる	<ul style="list-style-type: none"> ・ COVID-19 を取り入れた健康教育の作成による学習の動機づけ ・ リアルな健康課題への取り組み ・ オンライン用健康教育媒体の作成と地域組織メンバーの視聴とオンラインによるフィードバック 	A、B、C、D とりわけ D (17、18、20、21、23、24) をオンライン用教育媒体の作成と地域組織のフィードバックで補完

7. 健康危機管理

実践例	工夫点	工夫点で到達度の達成への補完が期待される到達目標
COVID-19 あるいは災害を取り上げた健康教育媒体の作成	・現在の COVID-19 を学習に取り入れること	A、B、C、D、G、H、I
既存オンライン動画から保健師の意図と動きを抽出	・既存オンライン動画の利用	A、B、C

8. 保健行政機関の機能と役割全般

実践例	工夫点	工夫点で到達度の達成への補完が期待される到達目標
既存資料、ホームページから保健所の事業概要の作成	保健事業概要の作成による保健所機能の理解	M、P
実習指導者や OB 保健師のオンライン参加によるカンファレンス実施	実習指導者や OB のオンライン参加	P

実習代替支援プログラムのための媒体

■アクティブラーニング(反転授業)や実習代替の助けとなる学習支援プログラムや動画・書籍

1. 見せる公衆衛生看護技術(地域診断、活動評価の助けに)

(2011-2014 年度 科研 B JP23390517 の成果物)

(技術習得 学習支援動画: 必要性を見せる=健康課題の探索からロジックモデルで事業化へ、成果を見せる=住民のエンパワメントを志向する事業評価の展開)

<http://www.phnspace.umin.jp/miseru/>

2. 地域の強みを高める公衆衛生看護技術_活気づけ編(グループ支援、地区組織活動の助けに)

(2015-2018 年度 科研 B JP15H05103 の成果物)

(技術習得 学習支援動画: 住民の主体的活動の動機づけについて、2 場面比較で学べます。活動ガイド・シナリオ・ワークシート・小道具付き)

<http://www.phnspace.umin.jp/tech.html>

3. 保健師による東日本大震災復興支援プロジェクト(災害保健活動、対象理解の助けに)

(2011 年度 厚労科研・老人保健事業推進費等補助金の成果物)

(各種動画の活用目的: 保健師魂実感、対象理解促進、活動展開実感、地区視診の実際)

<http://www.okayama-u.ac.jp/user/phn/>

4. ナラティブな事例を用いて保健師の専門性学ぶ教材(保健師活動の原則を実感し、理論を用いて実践の言語化を図る)

1) 公衆衛生看護学テキスト第3巻(医歯薬出版)

・第3巻は全章がナラティブな事例で構成されています。事例を各自が読む、あるいはグループで読むなどして、第1巻、第2巻の理論を用いて事例の記述内容の意味付けを行います。

例: 本学では、事前に学生がアクティブラーニングシート(欄: 事例の記述内容抜粋、用いる理論の選定、どのように意味づけたかの解説、疑問や意見等)に記入したものを提出し、Web の画面共有をしながらグループワーク(各自の発表とディスカッション)、その後全体でのデブリーフィングを行っています(半期に各自4つの章を実施)。

2) 「保健師の継承語り—晴れの国おかやまから—」(ふくろう出版、2012)の各章もナラティブ教材として活用できます。

5. 標準的な健診・保健指導プログラム(改訂版)及び健康づくりのための身体活動基準 2013 に基づく保健事業の研修手法と評価に関する研究(2013 年度厚労科研・H25-循環器等-(生習)-一般-028 の成果物、研究代表者 津下 一代先生)

保健指導の学習支援動画:

<http://tokutei-kensyu.tsushitahan.jp/deliverable/movie>